

教育委員会だより

いそぎく

発行日 平成20年7月1日
編集・発行 葉山町教育委員会教育総務課
〒240-0112 三浦郡葉山町堀内2050-9
TEL. 046(876)1111
FAX. 046(876)1861

第228号

教育長あいさつ



新教育長 豊田 茂紀 氏

葉山町教育委員会「教育総合プラン」が五月初めに策定されました。経済・社会の仕組みの大きな変化の中で、これからの葉山町の教育のあり方を考えるために、平成十七年三月以降、多くの課題をさまざまな観点から論議してきたものの集大成です。もちろん、教育総合プラン策定委員会が平成十四年教育長から諮問を受けて以降の活動が先にあります。この間、学職経験者・教育関係者・地域指導員等からなる教育総合プラン推進懇談会で三年間にわたり論議は進められました。

その目的は、子どもたちが安心して楽しく学べる安全な社会環境・学習環境を整備することであり、一人ひとりが自立し豊かな心を育むために、学校・家庭・地域がその役割を確認し助け合っていくことです。さらには自然や生き物と共生できる心を育成することにあります。

葉山町として、学校教育だけでなく、広い意味での教育について総合的に検討し、長中期的な方向性を示すプ

ランは今回が初めてのようですが、今後、このプランを実際に具現化していくことが基本となりましょう。すでに平成十七年四月以降、毎年重点的な目標を定め、その実現に取組んでいます。これからさらに進めていきます。学校について申せば、来年度から「新学習指導要領」（*参照）が一部前倒しして移行措置として始まります。ほぼ十年毎に改訂される指導要領ですが、三十年ぶりに学習内容や授業時間が増加します。

葉山町では、すでに独自に町費教員を六校に配置してきました。また、標準法に基づく教員定数内にとどまらず、教員の加配を得て工夫活用し、少人数学級や少人数指導、あるいは小・中学校への専科教員の配置、ティームティーチング授業をこの数年間実施してきました。今後は、さらに授業時数の増などを、確かな学力の向上に資することができればと考えます。

また、昨年四月に施行された改正学校教育法により特別支援教育に対するニーズが高まり、障害のある児童・生徒への支援はもちろん、一人ひとりの児童・生徒への教育支援も進めていきたいと考えます。

私は、五月十六日に教育長に就任しました。

県立高校六校に三十八年間勤務。教諭時には、「政治経済」科目を中心に教

え、校務分掌では「生徒指導」を主に担当してきました。その後、県立の専門図書館に勤務。さらには公共職業安定所で中学生から大学院生までの求職活動を支援してきました。昨年三月すべての公的生活を終えましたので、十一月には日本橋から三条大橋まで旧東海道を二十四日間歩き通しました。今回、三十二年間居住した葉山町で教育行政を担当することになりました。

どうぞ、よろしくお願いいたします。
*学習指導要領とは

全国どの学校で教育を受けても一定の教育水準を確保するために、各教科等の目標や内容などを文部科学省が定めているもので、教科書や学校での指導内容のもとになるもの。

新学期のスタートです



長柄小学校の入学式

平成二十年度は、町内小学校に二九九名、中学校に二四四名の新入生が入学しました。

「開かれた学校づくり」を目指して

葉山小学校長 河村 英二

葉山町には豊かな自然があり、子ども達を見守り、支援して下さる地域の方々がいらっしゃいます。葉山小学校はその恩恵を受けながら教育活動を行ってきました。

特に生活科・総合学習が導入されたこの十年間では、多くの方が直接的に、あるいは間接的に関わって下さいました。具体的な例を挙げてみますと

- ① 一年生では竹馬、コマ回し、お手玉、おはじき、羽根突き等を昔遊びというテーマで教えに来ていただきました。
- ② 二年生の地域学習では学区探検や磯の観察、天草採りでご協力をいただきました。
- ③ 三年生では図書館・美術館・しおさい公園、役場等の公共施設見学、寺社や農家の様子も見せていただきました。
- ④ 四年生の福祉体験学習では講演の後、手話や点字、車椅子体験等をさせていただきました。
- ⑤ 五年生の米作りでは田起こしから、代かき、田植え、草取り、稲刈り、はさがけ、脱穀、餅つき、縄綱い等米作りに関する一連の活動を指導してくださりました。
- ⑥ 六年生では長柄・桜山古墳の説明や戦争・被爆体験のお話もしていただきました。

学校全体を見てもたくさんあります。毎日の交通安全指導や挨拶運動では町内会の方々に大変お世話になっていきます。また、毎週行われる絵本の読み聞かせや英語サポーター、いわゆる出前授業も含めて、多くの教育活動も行われています。

このような状況を考えると、葉山小学校は地域の方々に支えられながら日々教育活動を行っているのがよくわかります。改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

一方、学校はこのような状況を受けて積極的に情報提供を行っています。

まずは学校だよりの町内回覧や行事の案内を行っています。今年度はホームページの作成を予定しています。そして、四年前から行っている葉小教育懇話会も継続して開催します。教育委員会や町関係団体との連携を図ることは言うまでもありません。

新学習指導要領のいう「生きる力」

を育むため、特に思考力・判断力・表現力等の育成に力を入れ、生きて働く実力をつけていくには、地域の方々の教育力が重要です。そのために、これからも「開かれた学校づくり」を推進していこうと思っています。

葉山小学校の特色は、豊かな自然と地域の方々の支援の中で教育が行われていることです。成長が著しい子ども達にとって、そのことは一番の財産であります。

生徒一人ひとりの

「自立心」と「共生力」を育む

すべての教育活動をとおして

南郷中学校長 山本 陽子

本校の学校教育目標は「自立」と「共生」です。この目標をすべての教育活動の先頭に掲げています。

南郷中学校は小規模校をプラスと捉え、一人ひとりの生徒を職員たちが深く理解しようと努めることに心掛けています。そして、誰もが学校の中にホッとできる自分の居場所を持つるように導いています。また、生徒会総務役員だけでなく、各種の委員会や行事の実行委員会、日常の係などで積極的に役割を果たしている生徒や放課後に生き生きと部活を

葉山町だからできる豊かな学びに向かって

『葉山町教育総合プラン』解説(9)

連載 各校の「特色ある教育」について

南郷中学校は小規模校をプラスと捉え、一人ひとりの生徒を職員たちが深く理解しようと努めることに心掛けています。そして、誰もが学校の中にホッとできる自分の居場所を持つように導いています。また、生徒会総務役員だけでなく、各種の委員会や行事の実行委員会、日常の係などで積極的に役割を果たしている生徒や放課後に生き生きと部活を

している生徒など、授業への真剣な取り組みは元より、生徒たちが活動できる場を多岐にわたりに教育課程の中に取り入れています。特に、総合的な学習の授業では、地域の方々のお力をお借りしてFGC (Find Good Life Community) — 地域の良い暮らしを発見する) 活動を行っています。葉山まち



本年度町内最初の体育祭
5月17日 南郷中学校にて

づくり会やボランティアセンターの各団体方々のご指導で葉山町の自然や環境史・文化・社会活動など専門分野を体験学習させていただいています。この他に、学区の自治会長さんのお世話になって、「地域ふれあいの会」という地域のお話を伺う活動も行っています。これらの学習をとおして、自分の住んでいる葉山の町の良さを感じています。愛着心の芽を育めたらと期待しています。このように学校内の学習活動で味わえない活動の場を持つことによって輝く生徒も出てきています。

南郷中学校で過ごす三年間の中で生徒一人ひとりがそれぞれの持ち場で活躍でき、自信を持って将来に向かって巣立っていかれるよう、日々の教育活動をとおして、「自立心」を高め「共生力」を育める生徒像を目指しています。

陸上競技講座

本格的な「走る体験」から、生涯スポーツへ

「みんなは一輪車に乗ったことがある？足は一輪車をこぐように、回すようにして走るんだよ。」

「ボールを蹴るときにどちらの足で蹴る？その蹴るほうの足が利き足で、スタートのときは、その利き足が後ろになるようにしてかまえるんだ。」

子どもたちを前に、元神奈川県陸上競技協会の講師の先生や葉山町陸上競技協会指導員から、こんな声がかけられました。
南郷上ノ山公園に集まったたくさんの子どもの声が、響きわたっていました。

小学生を対象にした少年少女スポーツ体験講座『陸上競技講座』は、七十名の募集に百八名の応募のある人気の講座です。葉山町陸上競技協会の全面的協力のもと、本年は、百八名全員の受講が実現しました。

正直なところ、『陸上競技講座』に、これだけ多くの子どもたちが集まるということを予想していませんでした。



担当者もうれしい悲鳴をあげているのです。

人気の理由は、この講座に参加するとよくわかります。

ここでは、「走り方」を徹底的に教えてもらえます。走りを目指している本協会の方だからこそ、一人ひとりのクセがよくわかるのです。

冒頭で書きましたが、これらの声かけで、子どもたちの走りが、みるみる

変化してきます。足が高く上がるようになり、手もまっすぐになり、姿勢もよくなってきます。視線も左右に振られていたのが、正面をきつちりと見つめるようになります。例年、指導し始めと終わりにタイムを計るのですが、多くの子どもがタイムを縮めていました。

◆ 葉山町少年少女スポーツ体験講座『陸上競技講座』は、町の教育総合プラン「生涯スポーツへのアクション」の一つとして、将来葉山に有望な陸上選手を出現させるかもしれません。また、走りを楽しむ人たちで南郷上ノ山公園が埋まる日も、そう遠くはないかもしれません。

連載 第二回 ことばの教室より 「関係機関との連携」

現在、ことばの教室では、平成十九年度より支援教育が施行されて、その考えに基づき、学校や関係機関との連携を積極的に行っているところです。

そこで、学校との連携については、一人ひとりの教育的ニーズに対応し、支援教育を推進していく上で、重要なことであると考えています。

まず、その取組としては、ことばの教室が定期的に巡回訪問（相談）の形で学校へ伺い、通級している子どもたちの学校生活の様子を知り、担任の先生と情報を共有化することで、通級児の指導内容に生かしていくなど、子どもたちへのよりよい支援を進めていくことに、つなげていきたいと考えています。また、必要によっては、通級していない子どもたちについても、先生方からの相談に応じていきたいと思っています。関係機関については、町役場の子ども育成課や教育研究所とも相談し合うこともあります。さらに、教育総合センター内に幼児療育施設の「たんぽぽ教室」と「ことばの教室」が併設されたことを受けて、「福祉と教育のコーディネーター」の先生にも来ていただき、福祉と教育の連携も進んできています。

他には、通級している子どもたちのケースによっては、児童相談所と連携をしながら進めたり、医療に協力をお願い



することもあります。今後とも、子どもたちのためのネットワークを大切にしなが、支援をしていきたいと考えています。

小学校教科書を展示します

平成二十一年度使用小学校教科書については、全ての教科書会社で改訂はありませんが、平成二十一年度に採択を行うこととなります。このことにもない次のとおり教科書を展示します。

日時 平成二十年七月二日より

七月十四日(土・日を除く)

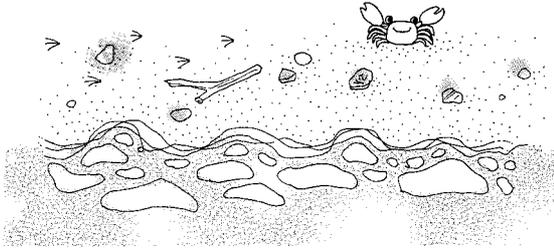
午前十時から午後四時まで

場所 葉山町教育総合センター

学びの広場(二階)

ビーチコーミングとクラフトを楽しもう (シーグラスのネックレス)

ナチュラリスト 角田 衛 イラスト 沢井 楓



ビーチコーミングとは

浜辺に落ちている漂着物でクラフトを楽しんだり、収集したり、調べたりすることです。身近に海がある葉山ならではの海との関わり、いつでも誰でも一年中楽しむことができます。台風の通り過ぎた後や西風（冬）、南よりの強風（夏）が吹いた後の浜辺は漂着物が多く打ち上げられています。

服装・・・軽装、帽子、靴 持ち物・・・手袋、タオル、水筒、ゴミ袋、小型ラジオ

* 注意

- ・一人では行動しない。
- ・天候に注意し、強風、高波、潮の干満に気をつける。（天気予報をみてからでかける。）
- ・危険物（ガラスや医療廃棄物、釣り針などはさわらない。）

シーグラスネックレスの作り方

- 1 紙ひもの中央にしっかりと材料を結び、外れないようにし、本結びを数回行う。



- 2 ネックレスのチェーン部分を数回編み込みかざりを付ける。

- 3 結んだシーグラスが落ちないようにティッシュなどを張り付け固定する。

- 4 濡れハンドタオルで軽く押さえながら定着させる。

- 5 その他の材料で好みに飾り付けをする。

- 6 乾いたら出来上がり。

- 7 長さの調節をしながら結ぶ。

準備品

- ・シーグラス
- ・紙ひも（1.5メートル）
- ・のり
- ・セロテープ
- ・ハサミ
- ・ティッシュ
- ・折り紙など



シーグラスについて

川などからながれてきたガラスやビンのかけらが波に打たれて角がとれ、丸みをおびたもののことです。

* 子どもがシーグラスネックレスを付ける場合ひもがすぐに外れるよう配慮する。（結ばずにセロテープで固定するとよい。）